



# 京大広報

No. 612

2006. 5



改善工事が完了した本部構内裏門周辺

## 目次

### 〈大学の動き〉

- 早稲田大学と研究・教育、産学官連携等の  
包括協定を締結……………2160  
オープンコースウェア(OCW)国際会議を開催……………2160  
清華大学科技园内に京都大学リエゾンオフィス  
を開設……………2161

### 〈部局の動き〉

- 低温物質科学研究センター新実験棟落成式……………2162  
公共政策大学院看板上掲式……………2162  
経営管理大学院看板上掲式……………2163  
地域研究統合情報センター看板上掲式……………2163

### 〈寸言〉

- へたな商人 前田 司……………2164

### 〈随想〉

- 初心忘れず根気よく  
名誉教授 桂 順治……………2165

### 〈洛書〉

- プロからアマチュアへ 嶺重 慎……………2166

### 〈話題〉

- 高等教育研究開発推進センター  
「第12回大学教育研究フォーラム」の開催……………2167  
ジョサイア・コンドル建築図面が重要文化財に  
指定される……………2168

### 〈日誌〉

- ……………2168

### 〈公開講座〉

- 複雑系科学の魅力とその発展  
—導入から最先端まで—……………2169  
第2回高田保馬記念講演……………2170

### 〈お知らせ〉

- 農学研究科シンポジウム……………2170  
総合博物館2006年春季企画展……………2171  
文学部創立百周年記念行事……………2172  
第8回生命科学研究所シンポジウム……………2173  
大学院生のための教育実践講座……………2173  
平成18年度創立記念行事音楽会の開催……………2174  
〈編集後記〉……………2174

京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

## 大学の動き

### 早稲田大学と研究・教育、産学官連携等の包括協定を締結

本学は、研究・教育、産学官連携・イノベーション創出、国際交流などについて、相互に協力していくことを目的として、4月10日(月)に早稲田大学と「連携協力に関する基本協定」を締結した。本学が私立大学と連携の包括協定を結ぶのは初めてで、今後は共同ゼミの実施やアジア、環境分野などの共同研究、産学官連携を進める。

本学で開かれた調印式では、尾池和夫総長と白井克彦早稲田大学総長が協定書に署名の後、尾池総長から「学生や教員たちの個別の交流はさまざまな分野にわたって行われてきたが、これを契機にさらに連携を深めるとともに、今後いろいろと大変なことがあると予想される大学運営の面においても、例えば、国際教養学部運営、リベラルアーツ教育、生涯教育、また財政の健全化など早稲田大学の取り組みを学びたい」と挨拶があり、早大の白井総長から「京大の学問の深さを吸収し、関西の大学との交流を深めるきっかけにしたい」との期待が述べられた。

調印式の後、連携のきっかけとなった早大の「エジプト考古学」と京大の「植物遺伝学」の研究成果を生かして開発した共同ブランドビール「ホワイトナイル」が早速披露され、両大学の発展を祈念し、乾杯が行われた。ビール造りは尾池総長が提案、古代エジプトで醸造に使われた小麦の種子を京大が提供



調印後握手を交わす尾池総長と白井早大総長



共同開発ビール「ホワイトナイル」

し、製法などについてはエジプト考古学が専門の吉村作治早大教授が協力、黄桜酒造(株)との共同研究により約1年かけてまろやかな風味に仕上げた。瓶入り330ミリリットル(450円)で、両大の生協などで販売している。

### オープンコースウェア(OCW)国際会議を開催

京都大学、マサチューセッツ工科大学(MIT)および日本オープンコースウェア連絡会は、オープンコースウェア国際会議を4月20日(木)に時計台記念館百周年記念ホールにおいて開催し、日本の大学関係者、IT関連企業関係者のほか、米国、イギリス、スペイン、中国など海外のOCW関係者等々約260名が参加した。

オープンコースウェアは、大学の講義で利用され

ている教材だけでなく、シラバス、講義計画などの講義情報もインターネットで無償公開するもので、今回の国際会議はOCWへの理解と参加を内外の大学に呼びかけて、この活動をさらに拡大し、人類の「知」の蓄積に貢献することを目的としたものである。

この国際会議は、尾池和夫総長の歓迎の挨拶に始まり、MIT・OCWのアン・マグリース氏による講演、



日本および世界のOCWの現状や問題点についてのパネルディスカッションが行われた(日英同時通訳)。また、休憩時間には、世界各国のOCWのデモンストレーションも行われた。

なお、この会議の様子は、メディア教育開発センターの協賛を得て、スペースコラボレーションシステム(SCS)により視聴を希望する大学に配信された。

注：現在、日本オープンコースウェア連絡会には、大阪大学、京都大学、九州大学、慶應義塾大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、北海道大学、早稲田大学の9大学が加盟している。



MIT・OCW アン・マグリリス氏講演の様子

## 清華大学科技园内に京都大学リエゾンオフィスを開設

中国北京の清華大学と京都大学の学術交流協定に基づき、本学は、清華大学正門前の清華科技园内に「京都大学リエゾンオフィス」を開設、4月27日(木)現地で開所式が行われた。

平成10(1998)年に京都大学と清華大学の間で交わされた学術交流に関する一般的な覚書に基づき、平成16(2004)年11月に本学国際融合創造センター(IIC)と清華大学国際技術移転センターの間で締結した産学公連携に関する覚書では、両大学を核に、自治体・産業界とも連携して、地域企業も含めた国際的な産学公連携の連携施策を検討するとともに、相互に活動拠点を提供し、客員教授を交換することに合意している。

本学では、桂キャンパスの国際イノベーション機構(IIIO)および国際融合創造センターの拠点である京都大学ローム記念館内に「清華大学京都拠点」として居室を準備し、客員教授の受入れも準備している。今回の清華科技园内のリエゾンオフィス開設により、京都大学が北京で活動する拠点を確立したことで、今後の活動の更なる発展が期待される。

また、産学公の連携施策の一つとして検討されてきたローム株式会社と清華大学との共同研究につい



て、同日契約が調印された。両大学に関連する産学連携の第一歩が踏み出されたことは大きな意義がある。

この開所式にあわせ、両大学の産学連携協力の更なる発展を期待して、双方にとって関心の深い環境問題解決への道筋をつけるべく、「水フォーラム」を開催した。

式典には本学から西村周三理事・副学長、松重和美副学長、牧野圭祐IICセンター長他が、清華大学から陳吉寧副学長、国際技術移転センター所長兼清華控股(ホールディングス)総裁の宋軍氏をはじめ多数の関係者が参列する中、盛大に開催された。

## 部局の動き

## 低温物質科学研究センター新実験棟落成式

総長裁量経費プロジェクト「ダークマター・アクシオンの探索」のための低温物質科学研究センター新実験棟が完成し、尾池和夫総長の出席のもとに落成式を3月31日(金)に行った。

最新の観測結果に基づく宇宙論によると、宇宙にはその全エネルギー密度の23%をも担う“ダークマター”と呼ばれる正体不明の物質が存在することが分かってきた。ダークマターの正体を明らかにすることは、素粒子物理・宇宙物理の最重要課題である。ダークマターの最有力候補のひとつとして、時間反転対称性に関わる未発見の素粒子“アクシオン”が挙げられる。アクシオンは、湯川秀樹博士がその存在を予言した $\pi$ 中間子とよく似た性質を持ちながら、遥かに軽く宇宙年齢よりも長寿命と予想されている。新実験棟では、リドベルグ原子を用いた高感度検出装置でダークマター・アクシオンを探索する。

これまで化学研究所において研究の推進に活用されてきたアクシオン探索装置 CARRACK を吉田地区北部構内の低温物質科学研究センター隣に完成した新実験棟へ移設する。全学共同利用の低温物質科



完成した低温物質科学研究センター新実験棟

学研究センターを核に新しい研究チームを形成し、アクシオン探索を行うとともに、低温環境下での表面物性科学や空洞量子電磁気学の実験的研究も展開する。

落成式における総長祝辞として、京都大学の特色の一面でもある未知の問題に挑戦する基礎研究分野の研究者たちへの激励とともに、新実験棟と装置が研究・教育の面で活かされて、今後すばらしい成果が得られることへの期待が述べられた。

(低温物質科学研究センター)

## 公共政策大学院看板上掲式

この春に開学した公共政策大学院の看板上掲式が、4月3日(月)に行われた。公共政策大学院専用の建物が整備されないままの出発であったが、仮の連携研究部長室の置かれた旧工学部4号館の北側玄関に看板が掲げられた。丸山正樹、西村周三両理事・副学長、森本 滋法学研究科長、森棟公夫経済学研究科長、吉田和男経営管理研究部長、本大学院専任教員らが見守るなか、尾池和夫総長と小野紀明公共政策連携研究部長により幕が除かれると、重厚な青銅版の上に鮮やかな金文字で公共政策大学院と刻まれた看板が姿を現し、小野連携研究部長をはじめ本大学院専任教員は、発足の喜びとともに改めて



責任の重さを実感した様子であった。

(公共政策連携研究部・公共政策教育部)



## 経営管理大学院看板上掲式

経営管理大学院の看板上掲式が4月3日(月)に法経総合研究棟正面玄関前で行われた。当面の間、経済学研究科の施設を共同して利用することとなるので、経済学研究科・法学研究科の看板と並べて掲げられた。尾池和夫総長、西村周三理事・副学長、吉田和男経営管理研究部長、森棟公夫経済学研究科長、西本清一工学研究科長によって除幕され、新しい研究・教育部局の誕生を祝った。

経営管理大学院は経済学研究科・工学研究科・情報学研究科などの協力の下、いわゆるMBA(経営学修士)の学位を取得することで高度職業人教育を目的とした専門職大学院として発足したものである。日本経済がグローバル化などにより大きく変化



する中、新しい経済の発展を担う人材の教育・研究拠点として大きな期待が持たれている。

(経営管理研究部・経営管理教育部)

## 地域研究統合情報センター看板上掲式

本年4月1日付けで全国共同利用施設として「地域研究統合情報センター」が新たに設置されたことに伴い、4月3日(月)同センターの看板上掲式が行われた。

上掲式には、尾池和夫総長、丸山正樹、松本 紘両理事・副学長のほか、多数の関係教職員が出席し、尾池総長、田中耕司地域研究統合情報センター長ほか関係者により看板の除幕が行われた。

「地域研究統合情報センター」は、京都大学に地域研究を行う部局としてこれまであった東南アジア研究所および大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に加え、世界の各地域を対象に地域間の比較研究や地域に関する情報を提供する研究センターとして設置された。設置にあたり国立民族学博物館の地域研究企画交流センターから全教員9名が本学に移り、東南アジア研究所やアジア・アフリカ地域研究研究科からの教員を加え、総勢14名の教員で、地域横断的な相関型地域研究の推進や地域情報資源の共有化、地域情報学の構築に向けた事業を実施していくことになる。

地域の情報資源に関連して、国立民族学博物館に所蔵されていた「京セラ文庫英国議会資料」が本学に



移管された。この資料は、19世紀初頭から20世紀半ばにわたる英国議会の議論を記録したもので、大英帝国の植民地経営、あるいは当時の世界情勢などに関する貴重な資料を含むものである。約12,000冊の資料は附属図書館の地下書庫に収蔵され、近々公開利用される予定である。

この資料の利用はもちろんのこと、地域研究に関わる全国の研究者、研究機関の交流の核としての役割が、全国共同利用のこの研究センターに期待されている。

(地域研究統合情報センター)

## 寸言

## へたな商人

前田 司



正直に告白するなら、私は京大の農学部に入学することより山岳部に入ることが目的であった。入学するや西部構内の部室へ走り込んだのは言うまでもない。留年と修士課程合わせて7年間憧れのヒマラヤ行を目指したが、現地の政情と己の技倆の未熟さから志かなわぬまま家業の古書籍商の道を進むこととなった。

京大山岳部には大先輩今西錦司及びその薫陶を受けた人々によって育まれてきたパイオニア精神が根づいている。これは京大が最も誇るスピリットであり本家の山岳部の卒業生であるなら骨の髄まで浸み込んでいる。

さて古書籍商として歩み出したとき、山岳部のOBを中心に組織されている京大学士山岳会が「国際登山探検文献センター」を設立することになった。広く文献を蒐めるためにインド、ネパールへ買い付けに行くことになり、まがりなりにも商売柄私も同行することになった。そこで英国人の残した書物に接し、洋書の奥深いすばらしさに魅かれた。

これは本場の英国に足を向かわせることとなる。そこにはあるわあるわ、日本書には見られない重厚な革装本、長い歴史に裏づけられた内容の濃い書物。そんな中に幕末から明治にかけて日本を訪問した欧米人の日本紀行書をいくつか見つけた。

ちょうどこの頃人文研で吉田光邦教授の「19世紀情報と社会変動」という研究班が開かれており、私が英国から持ち帰った本も少々お役に立つことになった。これが縁で当時助手だった横山俊夫先生から研究会ものぞいてみませんかとお誘いを受けた。吉田先生を囲んで若手の学者が激論を闘わす中で町人の私は毎回出していただく名物菓子と会のあとの酒席を楽しむだけであったが、ここで東洋と西洋の先蹤者の情報の交流、吉田先生の言う「両洋の眼」を学ぶことが出来た。これが今の私の商いの大きな柱となる。その後、学問ではとてもお返し出来ぬので研

究者の皆さんに資料の発掘や仲立ちでお役に立つことに努めた。附属図書館の大型予算で蘭書を収めさせていただいたのもそのひとつである。

蘭学に関する研究の多くは当時のパイオニア達の著わした翻訳書を中心に進められていたが、当時の蘭学者が実際に手本にした原書、いわゆる蘭書の方からアプローチすることで蘭学者の実像はもっと浮彫にされるはずである。こんな視点で蘭書の発見と蒐集に努めたのである。もちろんこれにはハルマと呼ばれる蘭日辞典を著わしたドゥーフの手稿を高知で発見、検証された人間・環境学研究科の松田清教授のご指導あつてのことである。

パイオニア精神は若い血をたぎらせる。業界に入ってしばらくすると何か新しい事業を始めたくなった。若い仲間と諮って文化の日に「古本供養」を京大前の百萬遍知恩寺で開催した。文化の担い手である書物に感謝することはこれを商う業者だけでなく、本に親しむすべての方に意義あることで、これは世界中どこも行われていない催しである。そしてお詣りに来る本好きの方を目当てに古本市が立つというシナリオで「秋の古本まつり」というイベントを作り上げた。今では京の風物詩としてすっかりおなじみとなり今年で30回を迎える。

真白の雪山に初めて自分の足跡をつけてゆくのは実に心地良く、ここにパイオニアの悦びが凝縮されている。しかし先頭に立って雪山をラッセルしてゆくのは実にしんどく、それに比べてその後ろをゆくことの何と楽なことか。マラソンには風を切って走るトップの陰で力を溜めておき最後に追い抜くというタクティックスがある。商いでも未知の世界を目指すことは痛快であり、ひょっとして、そこに巨利があるやもしれぬが、労少なくして利を得るにはマラソンよろしく二番、三番手にある方がどうやら賢明であるようだ。

ところで最近なにか京大に元気が感じられない。京大の誇るべきパイオニア精神を忘れて商人と同様、楽して利を得るために二番手、三番手に甘んじているのではなかろうか。町人の杞憂なら幸いであるが。

(まえだ つかさ (株)キクオ書店代表取締役、昭和43年農学部卒業)



## 随想

## 初心忘れず根気よく

名誉教授 桂 順治

構造物の耐風設計に際して一般に使われる方法は、まず、その場所での風速の方角別極値を調べることで、そして構造物周辺の地形地物を含めた縮尺模型を大きな風洞に置いて風を吹かせ、模型に生じる諸現象を参考にして、構造物に対する風の作用を想定するものである。この形式の風洞を大気の接地境界層の一部を再現するものとして境界層風洞といっており、1965年にデンマークで考案された。以後、60年代の終りごろから実在の超高層建物での風圧計測がカナダで始まり、75年には風洞実験とよい一致が得られるという結果が発表されて、世界の注目をあつめた。一方、これとほぼ時を同じくして、イギリスでは、住宅地に建てられた2階建住宅の各所に発生する風力が丁寧に計測されたが、こちらの風洞との対応はあまりよいとはいえなかった。しかるに、経済成長を背にした当時の日本の風潮は、先の読めない後者よりも結果の容易な前者に傾くのがならいであり、それが今も続いている。

1979年2月、広島大学工学部から本学防災研究所に赴任する私を待っていたのは、全国に先駆けた境界層風洞の建設であった。原理的には単純なものであり、風圧と音圧とが混同しないように騒音の発生に気をつけたぐらいで、81年3月には無事竣工した。この間にもう一つの課題として、完成すれば直径が100m以上ともなる貯炭用ドームの風荷重を設定するための野外実験があった。潮岬風力実験所に直径6m、高さ2.4mの縮小模型を作り、強風時の風圧を測定するのだが、先のイギリスでの住宅の場合と同様、思わしい結果は得られず、あげくには風洞の世話になるという間の悪いこととなった。82年以降、潮岬での他の一連の実験がすすむと、85年には、模型という発想をやめ、背の低い円筒の胴壁に浅い円錐



屋根をのせて単純化し、計測手法も技術の進歩に合わせて、再び低層建物の問題に挑んだ。ところが観測結果の性状は以前と変わりなく、その不確定性は本質的なものとせざるをえなくなって、問題を残したまま88年この観測実験を終らせた。

1991年の夏、カナダで国際風工学会議があり、そこではもう境界層風洞一辺倒で、疑念に関する声は聞こえなかった。その年の秋、道を歩きながらふと、地上の観測点で得られる風速ベクトルを時間積分すれば、空間曲線になることに気付いた。この時刻目盛つきの仮想空間曲線をのちに流程と呼び、その直線に近い部分が物体の大きさに比して長いほど、物体周辺の流れの形態が風洞と似ることがわかった。逆に、ほとんどの場合を占めるのだが、流程が不規則に曲がれば、物体回りの循環流も不規則になって、全体としての流れの形態が定まらない。つまり、風洞では、計測胴の胴筒軸が直線であるかぎり、物体周辺の流れの形態は直線流が基調になっており、それが設計値の取得を可能にしているのだ。近年、私は機会あるたびにこのことを言ってきた。しかし、この手法は世界的に広まってしまい、どんなときでもやれば済とする思考停止が進みつつある。

上に述べた流程は風向と風速の水平2次元データからなり、その計測可能な測器が1台あれば事足りる。しかし、乱れは本来3次元なので、3次元計測が望ましい。停年退職2年目の2002年正月から、自宅2階建屋根の棟瓦に立てた支柱の上で、性能のよい3次元超音波風速計を使って流程観測を始めた。流程には、乗物の停止した模型を用いて風洞実験が行われるのとは相対的に、静止流体中を物体が非回転のまま自走するときの軌跡の意味がある。また、流程を長さで目盛って座標化すると、すべての時間変量が物体の大きさを単位とした長さの変量となって、空気粘性の効き具合を議論するのに都合がよい。これらの長所をうまく解説し、伝えることが自分にできる最後のことだと思っている。

(かつら じゅんじ 元防災研究所教授 平成12年退官、専門は耐風構造)

## 洛書

## プロからアマチュアへ

嶺重 慎

一説によると、プロの天文学者のうち、約半数がアマチュア天文の出身だという。幸か不幸か、私はアマチュアの出身ではない。そのことをこれまで特段意識したこともなかったが、最近、事情が変わってきた。



昨年(2005年)7月のこと、インドネシアのバリ島で国際天文学連合アジア太平洋地域会議が開かれた。ひょんなことから私は、9つあるセッションの一つ、「天文教育・普及」セッションの組織委員長を務めることになってしまった。そこで、こう考えた。「例年のように、天文教育や普及の理念に関する講演を並べてもおもしろくない。どうせやるなら、前例のない、奇抜なことをしかけてやろう。」

日本もインドネシアも、アマチュアグループの盛んなところ。幸いにして、日本国内で天文教育や普及に従事しておられる方々の多大な協力を得ることができ、「各国の高校生を集めて報告会をしよう、日本からもたくさん高校生を送り出そう、地元の高校を訪問して交流会をしよう、夜にはスターパーティをしよう」と、いくつもアイデアが集まった。これらのアイデアは、紆余曲折の後、実現することとなる。

かくして、「天文教育・普及」セッションには、日本から50名もの高校生および高校の先生方が参加し、他国の高校生やプロの研究者の前で自分たちの活動について英語で報告し、交流をすることとなった。研究者にも大変好評で、生徒たちも大変喜んでいった。

その夜、私は、一人のアマチュアとして天文を楽しむことになってしまったのである。バリ島はほぼ赤道直下、日本からみると南の空すれすれに見える「さそり座」は、頭上高くのぼり、見上げていると首が痛くなる。南天のシンボル、南十字星も、太陽系に一番近い恒星、アルファ・ケンタウリも夕暮れ時に燦然と光っている。そして、双眼鏡を手に、銀河

系中心のある「いて座」付近を探訪すると、あるわあるわ、星雲(ガスの塊で、星からの光をうけて明るく光るものや、背景からの光を吸収して暗雲となるものなどがある)や星団(星の集団)が、次から次へと目に入ってくる。息をのむ、とはこのことなのだろう。星空に詳しい高校の先生方の手ほどきをうけ、高校生らと共にアマチュア天文の醍醐味を満喫することとあいなった。「目覚めて」しまったのである。

さて、もう一つ別の活動を紹介したい。病院に入院中の子どもを訪ねて宇宙のお話をするという活動である。3月初旬のこと、東大や東京学芸大学の大学院生らと共に東京医科歯科大学附属病院の小児科を訪ねた。プレイルームに集まってくれたのは、小学校に入る前の子どもから高校生まで、親も含めて10人ほど。まずは、国立天文台が開発した4次元デジタル宇宙ビューワーを使って、ゲーム感覚で宇宙旅行を楽しもうという企画である。金星や火星に接近、着陸して表面のようすをうかがったり、太陽系を出てお隣の銀河を訪ねたりといった旅行を疑似体験してもらった。

最初、子どもたちの表情は硬かったが、その後、一人一人個別に美しい天体画像をもとに話をするころにはうちとけてきて、皆、目を輝かせていた。また、初めて手にするデジタル宇宙ビューワーをみごとに使いこなして興奮気味の子どももいた。さすがプレイステーション世代である。(ちなみに、操作方法はプレイステーションとほぼ同じ。)それを見ていた看護師さんが思わずもらしたことば。「あっ、あの子が笑ってる。今まであの子は怒ってばかりで笑ったことがなかった…」

今後この活動を関西にも広げたい、病院で観望会もしてみたい、観望会がダメでも個人用プラネタリウムで雰囲気だけでも味わってもらいたいと、夢は膨らむばかりである。ご協力頂ける方は、連絡を下さい。

こういった活動を楽しんでいると、もしかして自分は、アマチュアになるためにプロになったのかもしれない、そんな気がしてきた。

(みねしげ しん 基礎物理学研究所教授、専門はブラックホール天文学)



## 話題

## 高等教育研究開発推進センター「第12回大学教育研究フォーラム」の開催

高等教育研究開発推進センターでは、特色ある大学教育支援プログラム「相互研修型FDの組織化による教育改善」の一環として3月27日(月)～28日(火)、吉田キャンパス吉田南1号館および百周年時計台記念館において、第12回大学教育研究フォーラムを開催した。

初日の特別講演では井村裕夫元総長により「日本の高等教育の課題」と題し知識社会における大学のあるべき姿に関する講演があった。引き続きシンポジウムでは、「FDの新たな組織化をめざして－教員、学生、事務職員－」をテーマに、尾池和夫総長、林 哲介センター長の挨拶に続き、安永 悟久留米大学文学部教授／教育・学習支援センター長、神保啓子名城大学学務センター教職課程・学芸員担当主事、林 哲介センター長、田中毎実高等教育研究開発推進センター教授の4氏によるパネルディスカッションがあり、その後、会場の参加者と活発な意見交換がなされた。

一方、個人研究発表では2日間にわたり13の会場で、大学教育改善の実践研究に関する発表が計49件行われた。小講演では本学の荒木光彦副学長・大学院工学研究科長、高見 茂教育学研究科教授、楠見孝教育学研究科助教授の他、宇佐美 寛千葉大学名



誉教授、齋藤憲司東京工業大学保健管理センター助教授、竹内 洋関西大学教授、玉 真之介岩手大学副学長、羽田貴史広島大学教育研究開発センター教授、中井俊樹名古屋大学高等教育研究センター助教授の計9名による講演が行われた。

フォーラム最後のラウンドテーブルでは、「相互研修型FDの組織化による教育改善(中間報告第3回)」、「遠隔授業を通して見えてきた大学教育の未来」、「仕事で英語が使える日本人の育成とは：現代GPの挑戦1」、「心理学者、授業評価への挑戦」、「e-Learningが高等教育に与える影響－より多様な“学び”への支援に向けて－」、「携帯メールによる講義支援システム『メル勉』と授業実践」をテーマに、大学教育の最新の知見と実践に関して、各会場で討論が交わされた。

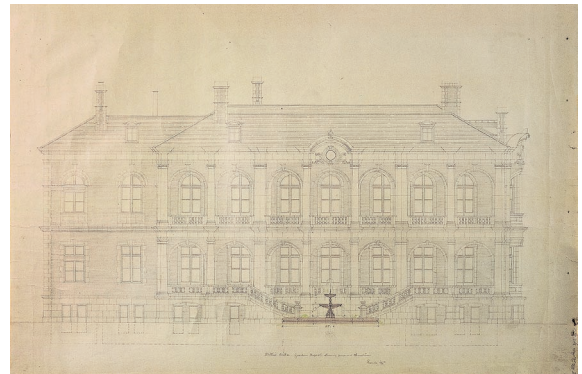
このフォーラムには2日間で学内外の大学関係者計503名の参加者があり、本学および全国の大学の教育改善のためのリソースが集積したといえる。また1日目終了後開催された懇親会にも多くの参加者があり、一層の交流を深めるなど、盛会のうちに終了した。

(高等教育研究開発推進センター)



## ジョサイア・コンドル建築図面が重要文化財に指定される

本年6月の官報告示をもって、本学所有のジョサイア・コンドル建築図面468点が重要文化財(歴史資料)に指定されることになった。「日本建築界の父」と称されるジョサイア・コンドル博士(1852-1920)は工部大学校(東京大学工学部の前身)の教師として辰野金吾など多くの建築家を育てる一方で、鹿鳴館などを設計したことで有名である。本学が所有する同博士のコレクションは、昭和14年12月13日、古市公威氏によって京都帝国大学建築学科に納入されたもので、博士が設計したニコライ堂(重要文化財)や綱町三井倶楽部など著名な建築の図面が含まれており、日本最大・最良のコレクションとして評価されている。近代建築史だけでなく近代技術史に寄与しうる研究上・教育上重要な資料群である。



三井家倶楽部本館設計図(立面(背面), 噴水立面)



東京復活大聖堂(ニコライ堂)聖堂設計図(立面(背面))

## 日誌 2006.3.1 ~ 3.31

- 3月2日 総長ランチミーティング  
(エネルギー理工学研究所, 生存圏研究所)
- 3日 職員組合との交渉
- 〃 タイ, Taweep Chaisomphob タマサート大学副学長 他4名, 総長他と懇談
- 6日 役員会
- 〃 総長ランチミーティング(数理解析研究所)
- 〃 クロアチア, Dragan Primorac 科学・教育・スポーツ大臣 他7名, 総長他と懇談
- 7日 部局長会議
- 8日 総長ランチミーティング(東南アジア研究所)

- 10日 学生部委員会
- 13日 平成18年度京都大学入学試験(後期)  
(14日まで)
- 〃 役員会
- 14日 クロアチア, Helena Jasna Mencer ザグレブ大学総長, 総長他と懇談
- 〃 ギニア, Makan Kourouma 国立ボッソウ環境研究所長, 総長他と懇談
- 〃 フィンランド, Jorma Julin 駐日フィンランド大使 他3名, 総長他と懇談
- 15日 国際交流委員会



- |                                                                                  |                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 17日 施設整備委員会                                                                      | 23日 博士学位授与式                                                                                           |
| 〃 職員組合との交渉                                                                       | 24日 卒業式                                                                                               |
| 〃 インドネシア, Umar Anggara Jenie イン<br>ドネシア科学院 (LIPI) 長官 他 2 名,<br>総長他と懇談及び学術交流協定調印式 | 〃 総長ランチミーティング<br>(放射線生物研究センター)                                                                        |
| 20日 役員会                                                                          | 27日 役員会                                                                                               |
| 〃 総長賞表彰式                                                                         | 28日 財務委員会                                                                                             |
| 22日 広報委員会                                                                        | 〃 教育研究評議会                                                                                             |
| 〃 部局長会議                                                                          | 29日 経営協議会                                                                                             |
| 23日 修士学位授与式                                                                      | 〃 役員会                                                                                                 |
| 〃 補導会議                                                                           | 〃 企画委員会(第20回)                                                                                         |
| 〃 放射性同位元素等管理委員会                                                                  | 30日 ケニア, Nick Gatheru Wanjohi ジョ<br>モ・ケニヤッタ農工大学長, Everett<br>Maraka Standa ケニヤッタ大学学長<br>他 2 名, 総長他と懇談 |
| 〃 学生懲戒委員会                                                                        |                                                                                                       |
| 〃 中国, 李 東翔 駐日本大使館公使参事<br>官 他 3 名, 総長他と懇談                                         |                                                                                                       |

## 公開講座

### 21世紀COEプログラム公開講座 複雑系科学の魅力とその発展 ―導入から最先端まで―

1. 日 時：6月24日(土) 10:40～16:25
2. 場 所：芝蘭会館別館 2 階研修室(京大正門前バス停から西へ徒歩 1 分)  
※ 2 階へのエレベータはありません。
3. 演題と講師：「計算力学の最前線 ―高速多重極法」 西村 直志  
「リズム現象とカオス」 藤坂 博一  
「制御理論とデジタル信号処理 ―シャノンのパラダイムを超えて」 山本 裕  
「流体系でのカオス, 非線形波動, 共鳴現象」 船越 満明  
「脳科学における逆問題 ―神経のネットワークを探る」 久保 雅義  
「フラクタル上の解析学とは」 日野 正訓  
「統合的リスク解析手法の構築に向けて」 田中 泰明
4. 受講料：無 料
5. 申し込み：事前申込不要(当日直接来場)
6. 問い合わせ先：〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院情報学研究科 複雑系科学専攻 田中泰明

TEL : 075-753-5878 FAX : 075-753-4923

E-mail : fukuzatsukei2006@acs.i.kyoto-u.ac.jp

詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.acs.i.kyoto-u.ac.jp/>

## 第2回高田保馬記念講演

1. 日 時：7月5日(水) 10:30~12:00
2. 場 所：時計台記念館 百周年記念ホール
3. 演題と講師：「すべての人のための公正貿易－開発ラウンドのために」  
 ジョセフ・スティグリッツ教授  
 (コロンビア大学ビジネススクール, ロバート・ヘイルブラン講座)  
 (2001年ノーベル経済学賞受賞者)  
 同時通訳付き
4. 定 員：500名
5. 受 講 料：無 料
6. 申 し 込 み：事前申込不要
7. 問い合わせ先：京都大学大学院経済学研究科 COE 研究補助員室  
 TEL：075-753-3452 E-mail：coe-jimu@econ.kyoto-u.ac.jp
8. 主 催：京都大学大学院経済学研究科  
 京都大学 COE 21「先端経済分析のインターフェース拠点の形成」  
 京都大学経済学会

## お知らせ

### 農学研究科シンポジウム

### No Border Agr. ー多様性の中の統一を目指してー

1. 日 時：5月25日(木) 15:30~17:40  
 6月29日(木) 15:30~17:40  
 7月27日(木) 15:30~17:40
2. 場 所：農学部総合館 1階 W-100講義室(左京区北白川追分町京都大学北部構内)
3. プログラム：
 

第1回 (5月25日)	
昆虫から学ぶーエントモミメティクサイエンスの創生ー	藤崎 憲治
え！農学部でロボット研究？	梅田 幹雄
世界に広がるフードシステムと食の安全確保	新山 陽子
食で病気を予防する	大東 肇
第2回 (6月29日)	
山地の災害とその防止軽減	水山 高久
A B C タンパク質ー寄生虫の薬剤耐性からヒトの生活習慣病までー	植田 和光
細胞から個体へー体細胞クローン技術の応用ー	今井 裕
ゲノムの構造変化, 新遺伝子の創出, さらに進化をつかさどるトランスポゾン M I T E s	谷坂 隆俊
第3回 (7月27日)	
生物資源から電気エネルギーを取り出す	加納 健司
ホットな水ー亜臨界水と食品加工ー	安達 修二
植物は, グリーンファクトリーになりうるか？	生命科学研究所 佐藤 文彦
4. 参 加 費：無 料
5. 申 し 込 み：事前連絡等不要



6. 問い合わせ先：京都大学大学院農学研究科等事務部教育・研究協力課

TEL：075-753-6411

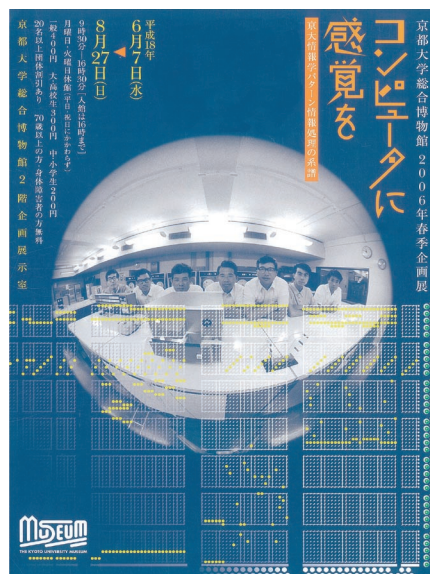
7. 主 催：京都大学大学院農学研究科

8. 共 催：京都大学農学部四明会

## 総合博物館2006年春季企画展

### 「コンピュータに感覚を一京大情報学パターン情報処理の系譜一」

世界のコンピューティング史は、その影響力の大きさから、1940～50年代は英米、1960年代以降は米国中心に語られることが多い。しかし、日本のコンピューティング史は、西欧中心のコンピューティング史の枠組みに収まらない特徴を持っている。特に、26文字のアルファベットを中心にした文字文化では容易に表現しきれない日本語の特性に起因する、パターン情報処理分野は、ユニークな開発思想によって先導された領域として知られる。この企画展では、こうしたパターン情報処理の分野において、京都大学で音声認識、画像認識、日本語情報処理などのパイオニア的業績を重ねた坂井利之研究室(工学研究科情報工学教室)の貴重な技術史資料を軸に、歴史的文書やシステムの記録映像などを公開する。また、いまは失われたシステムの原理をわかりやすく再現したものや、この分野で最先端の情報処理技術を使ったシステムなど、来場者が実際に触れてみることのできる体験型システムを展示する。



1. 会 場：総合博物館 2階企画展示室

2. 会 期：6月7日(水)～8月27日(日)

3. 開館時間：9：30～16：30(入館は16：00まで)

4. 休 館 日：月曜日・火曜日(平日・祝日にかかわらず)

5. 入 館 料：一般 400円、高校生・大学生 300円、小学生・中学生 200円(20名以上団体割引あり、70歳以上の方・身体障害者の方は無料)

上記の料金で、常設展も同時にご覧いただくことができます。

## 2006年春季企画展関連公開シンポジウム

1. 日 時：6月24日(土) 14：00～16：00

2. 場 所：時計台記念館国際交流ホール

3. 演題と講師：「コンピュータ感覚のこれまでとこれから」

京都大学名誉教授・龍谷大学名誉教授 坂井 利之  
「音声メディアの分析から知能情報処理へ(仮題)」

京都大学名誉教授・龍谷大学名誉教授 堂下 修司  
「情報処理における法則性(仮題)」

京都大学名誉教授・独立行政法人情報通信研究機構理事長 長尾 真

4. 参 加 費：無 料

5. 問い合わせ先：京都大学総合博物館

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL：075-753-3272 E-mail：info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp

## 文学部創立百周年記念行事

文学部は平成18(2006)年に創立百周年を迎えることとなりました。

つきましては、これを記念して、下記のとおり記念講演会および記念展示を開催しますので、お誘い合わせの上、多数ご来場くださるよう、ご案内申し上げます。

### 文学部創立百周年記念講演会

1. 日 時：6月10日(土) 13:00～16:10 (12:30開場)
2. 会 場：時計台記念館 百周年記念ホール (入場無料。事前申込不要。)
3. プログラム：

#### 記念講演 1

マイケル・ヴィッツェル (ハーヴァード大学教授)

“Inside the Texts, Beyond the Texts: Towards New Horizons of Humanistic Studies”

(文献に分け入り文献を超えて：人文学の新たな地平に向かって)

#### 記念講演 2

ジョシュア・フォーゲル (ヨーク大学教授)

「近代日中関係成立秘話：幕末上海派遣使節にかかわる新発見史料を中心に」

#### 記念講演 3

上田閑照 (京都大学名誉教授)

「京都大学文学部哲学科—その風景と潮流」

\* 記念講演 1 および 2 については、日英 2 カ国語のテキストを配付します。また、記念講演 1 は英語、2 および 3 は日本語による講演です。

### 文学部創立百周年記念展示—百年が集めた千年—

1. 会 場：総合博物館 2 階企画展示室
2. 期 間：6月9日(金)～7月9日(日)(月曜・火曜は休館)
3. 開館時間：9:30～16:30(入館は16:00まで)
4. 観 覧 料：一般 400円、高校生・大学生 300円、小学生・中学生 200円  
(上記の料金で、春季企画展・常設展も同時にご観覧いただくことができます。)
5. 共 催：総合博物館



## 第8回生命科学研究科シンポジウム

1. 日 時：7月7日(金) 9:15～17:40  
7月8日(土) 9:00～17:40

2. 場 所：京大会館101号室

3. 演題と講師：28研究分野の教授等が講演します。

「MAP キナーゼシグナル伝達の制御機構と機能」

教授 西田 栄介

「神経変性疾患発症における VCP 蛋白質の役割」

教授 垣塚 彰

「植物の光認識機構と生存戦略」

教授 河内 孝之

「細胞死関連シグナル分子の多様な生理機能」

教授 米原 伸

ほか

4. 参 加 費：無 料

5. 申 込 み：不 要

6. 問い合わせ先：京都大学大学院生命科学研究科総務掛

TEL：075-753-9221, 9249

E-mail：matsumura@adm.lif.kyoto-u.ac.jp

詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.lif.kyoto-u.ac.jp/j/>

---

## 大学院生のための教育実践講座 ―大学でどう教えるか―

この実践講座は、本学の大学院生が将来大学で教えるために、大学院生時代に自覚的に自分自身を形成していくきっかけとなることを目指し、高等教育研究開発推進センターが主体となって実施するものです。

1. 開 講 日：8月7日(月) 10:00～(受付 9:00～)

2. 場 所：時計台記念館

3. 参 加 費：2,000円 (当日、受付で徴収します。)

4. 参 加 人 数：60名程度

5. 申 込 締 切：6月30日(金)

6. 申 込 方 法：メールまたはFAXで申し込んでください。(申込様式はホームページに掲載します。)

7. 申 込 先：京都大学学生部教務課教務グループ(教育改革等支援担当)

E-mail：gaku-kyomu02@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

FAX：075-753-2485

詳細は、ホームページをご覧ください。

[http://www.kyoto-u.ac.jp/notice/05\\_event/2006/060807.htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/notice/05_event/2006/060807.htm)

8. そ の 他：参加者には「修了証」を授与します。

## 平成18年度創立記念行事音楽会の開催

本学では、6月18日の創立記念日を祝し、下記のとおり音楽会を開催いたします。  
本学学生・教職員の来聴を歓迎します。



名 称	岡山室内オペラ MOZART 生誕250周年記念コンサート 「Cosi fan Tutte」女はみんなこうしたもの		
指 揮	フォルカー・レニック		
ピ ア ノ	辻川謙次・松下智子		
キ ャ ス ト	フィオルディリージ／河原 正枝 ＜フェラール生まれの姉妹＞		
	ドラベッラ／松本 洋子 ＜フェラール生まれの姉妹＞		
	フェランド／松本 敏雄 ＜ドラベッラの恋人＞		
	グリエルモ／和田 茂士 ＜フィオルディリージの恋人＞		
	デスピーナ／河田 あづさ・林 千穂 ＜姉妹のメイド＞		
	ドン・アルフォンソ／久世 安俊 ＜老哲学者＞		
	合唱／田上るみ・中村郁恵・丸山美保・米谷亜希子		
日 時	平成18年6月15日(木) 開場：17：30 開演：18：30 終演：21：00(予定)		
会 場	京都コンサートホール(大ホール) (京都市左京区下鴨半木町1-26)		
プログラム	第1幕 《休憩》 第2幕 (全2幕をナレーション付原語で上演)		

### 岡山室内オペラ

岡山室内オペラはオペラのプロフェッショナル(オペラ歌手およびコレペティトゥア)を育成し、公演活動を行う団体であります。基本に忠実で本格的でありながらも、皆様が音楽を身近に感じられるような演奏を目指し、V. Renicke氏指導のもと限りない可能性をさらに磨きあげようと、日々努力しております。

毎年定期的にイタリア・ドイツオペラなど数多くの演目で演奏会を行っており、2003年にはMOZART作曲オペラ「ティトの慈悲」(全幕)を演奏し、好評を博しました。今年7月15日にも倉敷にて、定例の演奏会「オペラハイライト」を行う予定です。

モーツァルト生誕250年の2006年という記念すべきモーツァルトイヤーにちなみ、数ある作品の中から、輝きをはなつ旋律・美しすぎる響き・壮大な調べが、随所にちりばめられたMOZART最高傑作「Cosi fan Tutte」をお贈りさせていただきます。皆様が美しさに満ちたオペラの真髄に親しんで頂けます様、全力で演奏させて頂きたいと思っております。

### 指揮者略歴

Volker Renicke フォルカー・レニック  
ドイツ、プレーメンに生まれる。1950年デットモルト音楽大学指揮科に入学。1954年シエナ国際指揮者コンクール入賞。デットモルト劇場・ライト劇場・ミュンスター市立劇場の指揮者、チューリッヒ国際オペラスタジオ音楽監督を務め、1971年バーゼル市立歌劇場第一指揮者に就任。同時にチューリッヒ音楽大学指揮科およびオーケストラの指導にあたる。1976年9月九州交響楽団常任指揮者として来日。同団の定期公演をはじめ国内で多くの交響楽団の指揮を行い活躍した。1981年から1995年3月まで、国立音楽大学教授としてオーケストラや大学院オペラ科を指導。1981年から2001年3月まで、くらしき作陽大学音楽科客員教授としてオペラマイスタークラスおよびオペラクラスの指導にあたる。この間モーツァルトのオペラを多数公演し、津山国際音楽祭にて「魔笛」「皇帝ティトの慈悲」「フィガロの結婚」等、また1991年モーツァルト没後200年記念公演にて「イドメネオ」を上演。また、海外でもザルツブルクにてモーツァルトの「レクイエム」、ケルン劇場にて「魔笛」、ヴェルディ「椿姫」、ドレスデン音楽祭にてチマローザ「秘密の結婚」等上演。1997年には、ロンドンにてイギリス室内管弦楽団とレコーディング。1998年度福岡市文化賞受賞。

- 備 考
1. 入場無料(入場の際は、本学学生証または職員証を提示してください。)
  2. プログラムは当日会場で配付します。
  3. 定員は1,600名先着順とします。演奏中および就学前の児童は入場できません。
  4. 問い合わせ先：学生部学生課学生企画グループ TEL 753-2504・2588

(学生部)

## 編集後記

京大広報の発刊から37有余年。当初は編集に先生方が携わり、編集に長時間要したこともあったようですが、昨年からは広報センターで編集を担当しています。とはいえ、編集・校閲・校正など片手間ではできません。広報センターでは、皆様と同様に人任せにせず、自らの立場や使命を忘れず編集作業を行っています。

「京大広報」に不注意な単純ミスなど一つもないように編集作業を行っています。

[が、・・・ミスがあればご容赦ご勘弁を。]